

本物にふれる喜び、共有できる喜び

校長 山田 博

今回で13回目を迎えるオーストリアでの語学研修が充実したのものになるように意欲的に取り組んでくださる事を願っております。今年度はインフルエンザの影響で実施が危ぶまれていましたが、色々な方々のご支援・ご協力等を得て実施される事になり喜んでおります。グローバル化が進む今日、住み慣れた日本を離れ、約10日間程オーストラリアで生活を送る意義を考えて貰いたいと思います。

ここで私からは皆さんに一つだけ要望をしておきます。それは「本物に迫る機会として語学研修を生かして欲しい」という事です。個人的な経験ですが、私はある時まで浄瑠璃には全く興味も関心もありませんでした。テレビで数度観たことはありましたが、退屈で面白くなく何の感動もありませんでした。そんな訳で、浄瑠璃の舞台など観たいと思った事はなかったのですが、ある時、大阪の国立文楽劇場に勤める知人から人形浄瑠璃の入場券を頂きました。時間も余りなかったのですが折角の事ですから取り敢えず行ってみました。実際に演じられている演し物を観て驚きました！本物の舞台は私にとってはテレビで観たのとは全く違ったもので、美しく、そして人によって操られる人形がまるで生きた人間の様に思えてくる程の凄い迫力を感じました。美しさや迫力は演し物によって、また、観る人の受け取り方によって多少の違いはありますが、やはり本物に触れるということは大切な事だということとその時しみじみと感じました。皆さんも実験や実習などで実際に体験する事によりその仕組みや成り立ちを実感したり、好きな歌手のライブに行き、その迫力に圧倒されたり、歌詞の訴える意味が本当に理解できた事もあったかと思います。現地での生活を通じて、これまで教科書やガイドブック、その他の書籍で習ったり得られた色々な物事について、それらの本物を体験する事ができ、その感動を多くの人と共有する事ができます。一人より多くの人と共有することによりその感動はより大きなものになります。

本物に迫る機会として生かして欲しいと要望しましたが、そのためにはまず色々と積極的に体験することが肝心です。どうかこの機会をその様な視点に立って取り組まれることを願っております。この研修が今後の人生に於いて何らかの意味を持つものであると思います。語学の研修のみならず他文化理解の絶好の機会と捉えて様々な催し等に積極的に臨み有意義なものになるよう最大限の力を発揮してくださることを期待しております。また、気候風土の異なる地での体調管理には普段以上に注意を払い元気で活動されることを願っております。

最後になりましたが、本研修に際し、自彊会、PTA、後援会等今宮高校国際交流委員会の皆様の絶大なるご支援ご協力に対し、衷心より御礼申し上げます。